

- 前回の作業班会合(1月18日)の後、イリジウムと電波天文との間で、さらに数回の会議の場を持ち、以下の点を確認しました。
  - ダウンリンクに関しては、干渉を防ぐ以下のような機能を用いることで干渉を現在の衛星システムよりも抑えられること
    - ① サービスクラウディング(上方のチャンネルに対して最大限の出力の供給を強制する)
    - ② 周波数クラウディング(運用する帯域を最小限にする(周波数の再利用を増やす))
    - ③ ビーム管理(当該観測所上空において衛星ビーム数の最小化を行う)
    - ④ スペクトル制限(経度緯度に応じて衛星の帯域の制限を行う)
  - アップリンクに関しては、鹿島、臼田の観測所周辺のイリジウム通信のトラフィックの現状の実測データに基づき時間軸で計算された数値が、ITU Recommendation RA.1513による、2%のデータロス(単一ネットワークによる干渉)を下回ること
- 以上のことから、イリジウムと電波天文との間で、次ページのような基本方針による共用を行うことを合意しています。

## 電波天文とイリジウムの基本的合意

- 以下を前提として、イリジウム端末の使用に関する離隔距離の設定は行いません。
  - イリジウムでは鹿島、臼田、両観測所周辺のイリジウム端末によるトラフィックをモニタリングし、電波天文側へ、トラフィックのデータ(場所、時間など)に関する報告書を提供します。
  - 将来的にトラフィックが増加し、上記のデータに基づき、あらかじめ合意された計算方式において干渉が閾値を超えたと確認された場合、対象観測所の周辺での離隔距離の設定(緊急時の通信には適用されない)を行います。
  - イリジウムは日本代理店との間で、上記の点に関する実際のユーザーの説明に関する合意を取り付けます)
- 上記内容での合意書締結に向けて、電波点天文と具体的な文言について協議中です。